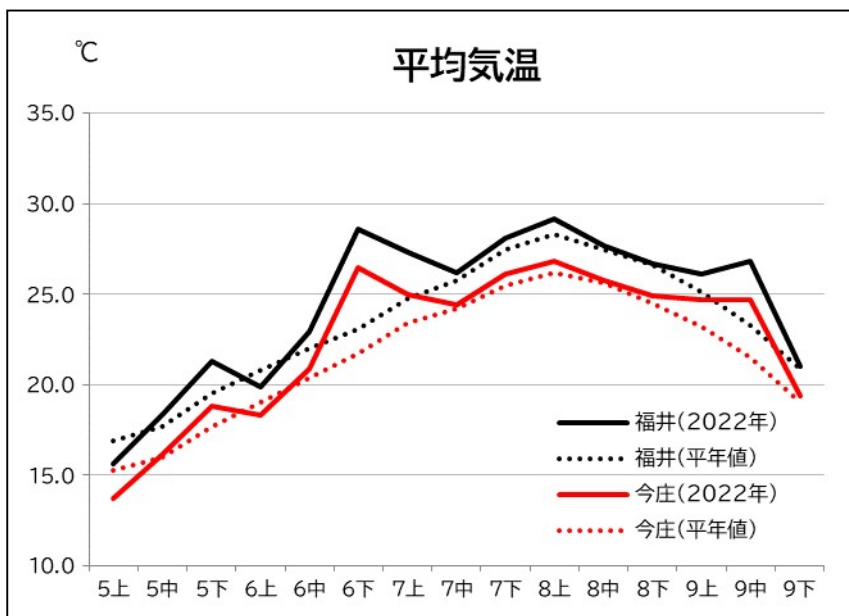


気象経過と生育概況



■4・5月

4月下旬～5月上旬にかけての低温により、ハナエチゼンでは初期生育が停滞しました。直播栽培では、出芽・苗立ちが遅れたことで、除草剤の散布時期が遅くなりました。

また、藻の発生が多く、初期生育が阻害される圃場も見られました。

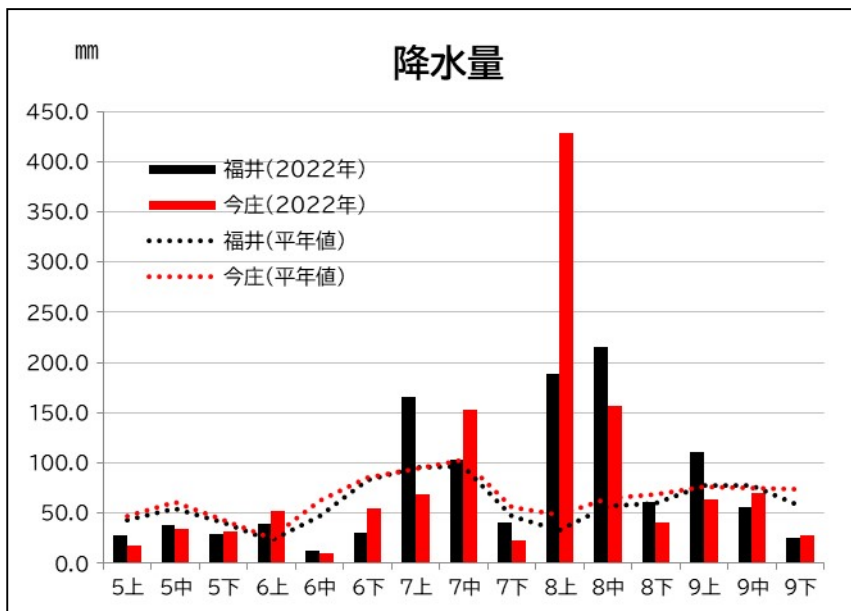
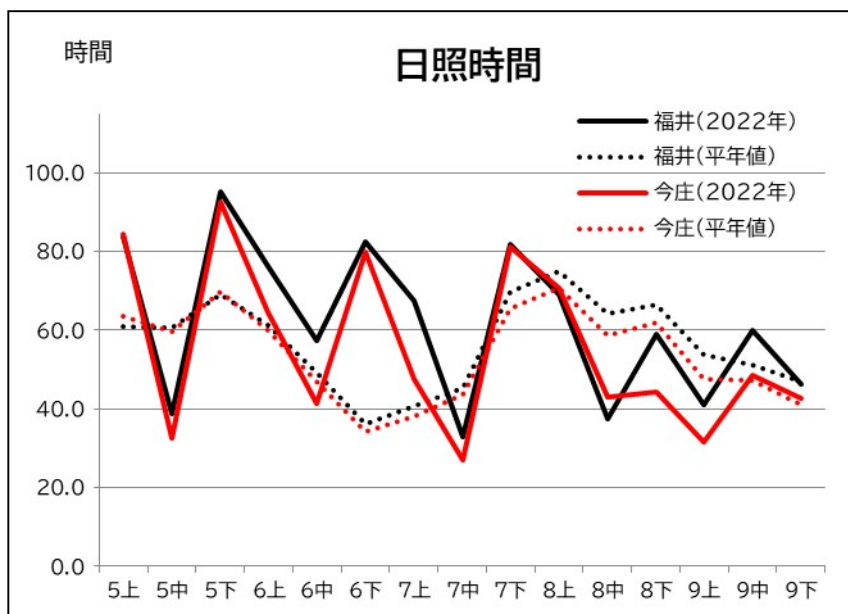
■6月

5月下旬以降は気温が高く日射量も確保できたことで、6月に入り生育が回復しました。梅雨明けは観測史上最も早い6月28日(後に訂正)とされ、極端な高温・多照が連続し生育量は増加しましたが、渇水状態により田面が露出し、除草剤の効果が薄れヒエ等の雑草が多くなりました。

■7月

6月下旬～7月にかけて山間地を中心に、イナゴの発生が見られました。

また、曇りや雨の日が多くなり、箱施薬剤や予防剤を散布していない圃場で、葉いもちの発生が見られました。



■8月

8月4～5日の豪雨の影響により、今庄地区を中心に大きな被害を受けました。

いずれの品種も登熟期間は曇りや雨の日が続き、日照時間が少なく登熟は緩やかに進みました。

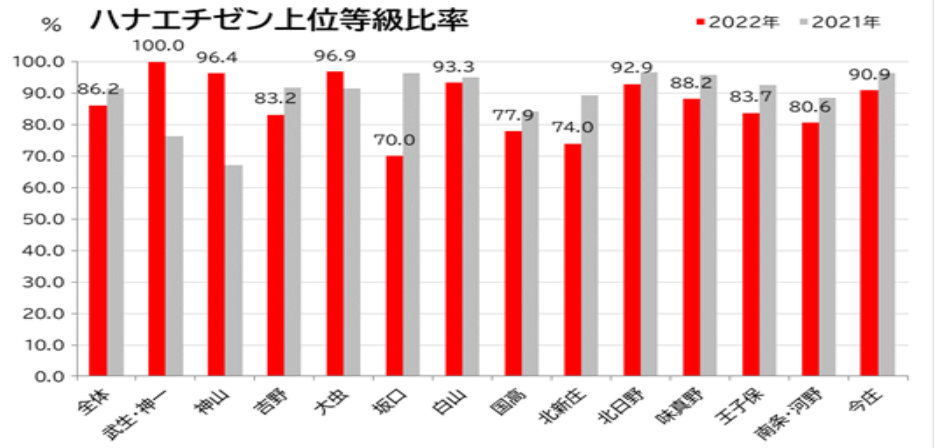
2022年産米 主要品種品質概況

倉前検査データより※10月5日現在

■ハナエチゼン

本年は高温傾向であり、生育が早く分けつも旺盛で、順調に生育し収量は平年並み～やや良いと思われます。

また、品質についてはカメムシ被害が少ない反面、出穂期以降の高温低日射と合わせて茎数が多く籾数が過剰となり、例年以上に乳白米が発生しました。



2022年産 主な格落ち理由

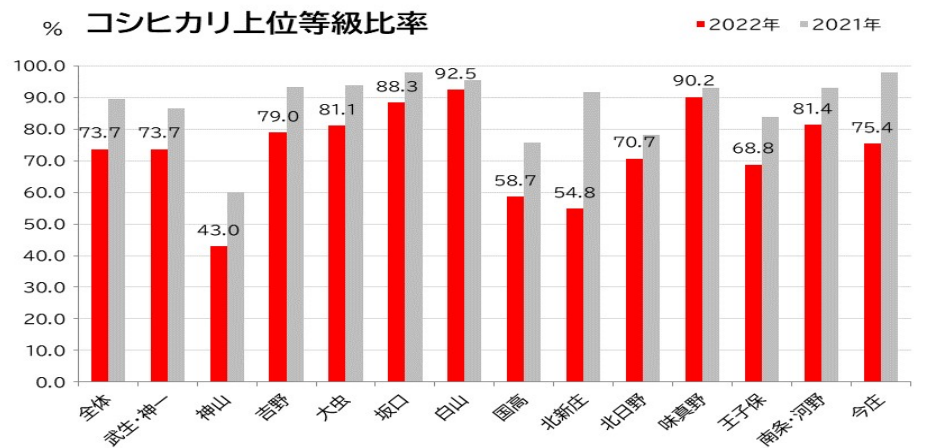
カメムシ	乳白	胴割	その他
18.1	72.7		7.6

■コシヒカリ

本年は、6.7月が高温で推移し生育が早く例年より出穂が3日程度早くなりました。

出穂期以降も、お盆ごろまで平年以上の高温傾向は続き、早く出穂したコシヒカリほど乳白米の発生が顕著でした。

また、出穂期の葉色が極端に淡かったり、水管理の不備で乳白米の発生が多くなったことも考えられます。



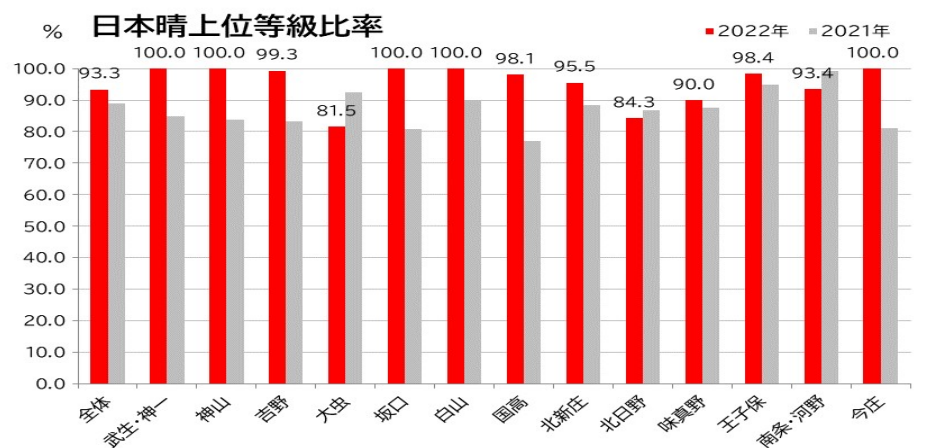
2022年産 主な格落ち理由

カメムシ	乳白	胴割	その他
2.9	89.7		4.1

■日本晴

全体的に高温で推移し7月までは生育は順調でしたが、8月以降低日射となり、収量は平年並みであると思われます。

品質的には、本年は積雪が平年並みにあったことから、クモヘリカメムシ等の越冬成虫が少なく、全体的に品質は良好でした。



2022年産 主な格落ち理由

カメムシ	乳白	胴割	その他
12.6	84.5	0.0	2.9